

『間断なき努力 ～ 進歩の要件 ～』

2023 年 3 月 15 日 新渡戸稲造 (1862～1933) から学んだ河井道(1877～1953)が創立した恵泉女学園の高等学校『第 75 回卒業式』に出席した。 在校生代表の『送別のことば』、183 名の卒業生 代表の『感謝のことば』には、大いに感動した。

筆者は、本山早苗校長の配慮で、『卒業生感謝会』で 9 代目理事長として『理事長挨拶』の機会が与えられた。 河井道著『わたしのランタン』の【ここまで、わたしは、私のランタンをかかげてきた。 時がくると、それは別の手へとひき継がれて、さらに先へと運ばれていくであろう。 私たちの魂の『太陽』が、この世界の面から、うれいと闇の跡をひとひらも残さず追いはらうまで、このランタンが、芯を切りととのえられ、燃え続けていくように、わたしはそれのみを願っている】を語った。

また、女子教育に大いなる理解を示した新渡戸稲造（東京女子大学 初代学長）が、援護した三人【河井道（恵泉女学園 創立者）、津田梅子（1864～1929； 女子英學塾 創立者）、安井てつ（1870～1945；東京女子大学 第 2 代学長）】に共通するのは『種を蒔く人になりなさい の実践であろうと！』と述べた。

『新渡戸稲造の言葉で感銘した 10 か条』にもさりげなく触れた。

- 1) 間断なき努力は進歩の要件
- 2) 自分の力が人に役に立つと思うときは進んでやれ
- 3) 意志は人なり
- 4) 人の欠点を指摘する要はない 人のあやまちは語るには足りぬ
- 5) 学問より実行
- 6) 理由があっても腹を立てぬこそ 非凡の人
- 7) 花は芽にあり
- 8) 威厳は優しき声に現れる
- 9) われ太平洋の橋とならん
- 10) 心がけにより 逆境も 順境とされる

大変有意義な貴重な『恵泉女学園高等学校第 75 回卒業式』となった。